

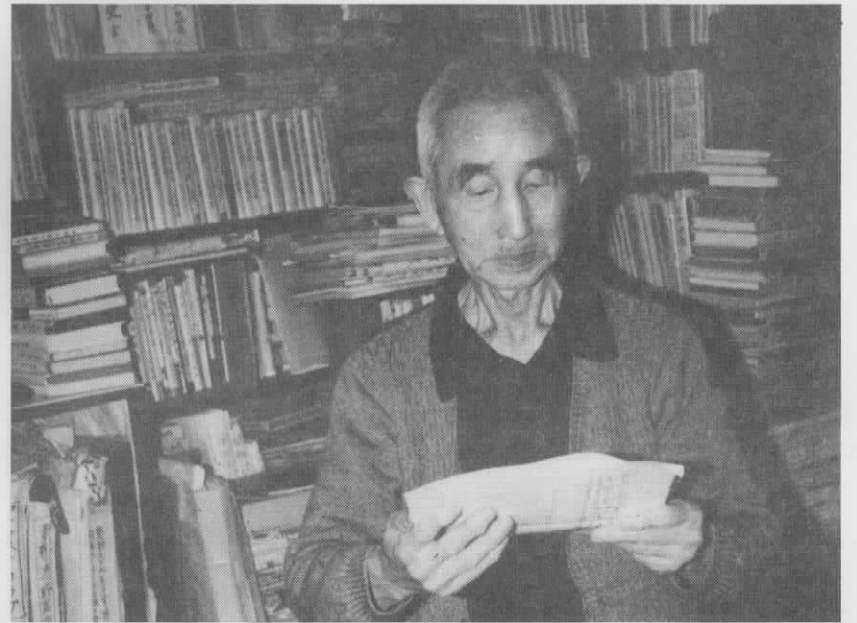
請願令違反懲役七月を服役出獄の日、  
昭和四年六月はじめ 大島英三郎

# 日本無政府主義運動史

第一編



幸徳秋水 菅野すが



ありし日の河本乾次さん



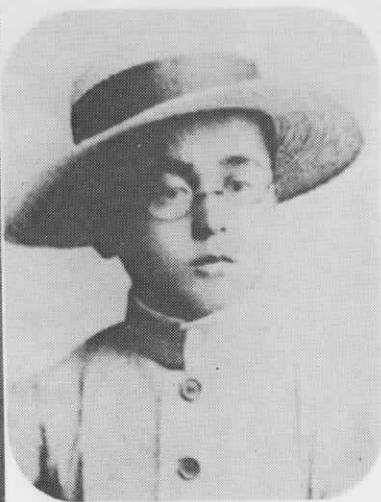
新村忠雄



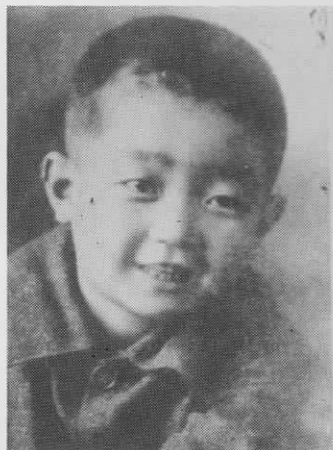
宮下太吉



大石誠之助



古河力作



橘宗一



伊藤野枝



大杉栄



# 永眠した石川さん

一九五六年（昭和三十一年）二月二十八日午前一〇時四分。  
行年八〇歳六か月。



和田久太郎



古田大次郎

— 無政府主義爆弾事件 —



金子文子

## 大会の日に

松木千鶴

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*

幸徳、大杉、その他知られざる

つつましき先輩の血汐

まことの社会を求むる心

叛逆となり

建設となり

われらのうちに流れる

厭制の冬ようやく去り

緑は萌え初め

春の雪どけの大河

われらのうちに音たかく流れる

春の雪どけの大河

われらのうちに音たかく流れる

その瞳

あるときは燃え輝き

あるときは湖のごとき静寂をたとう

石川、岩佐両先生を

われらは二つの瞳となし

風をほらみ

五月の薫風にとぼんとす

石川、岩佐両先生

生涯を革命に捧げ

齢六十を遙かにすぐる

今よりわれら青年の中にかへり

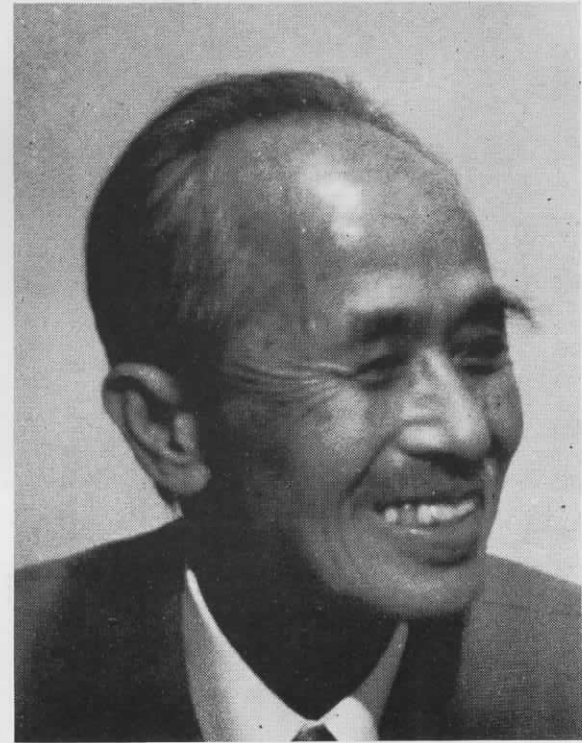
ふたたび真理のため、年を重ねられんことを

（詩の説明）

（昭和二十二年五月一〇日、  
日本アナキスト連盟第二回  
全国大会・東京都芝公園五  
号地一、日本赤十字社講  
堂に二〇〇名参集。松木千  
鶴さんの朗読の詩に満場感  
激。平民新聞の同年五月二  
一日付発行二七号より転載。



難波大助



岩佐佐太郎 いわさきさくたろう 1879～1967 アナキスト。千葉県の高農の次男として生まれる。1898年（明31）東京法学院（現中央大学）を卒業後、1901年に渡米し米社会主義者の中心として活動した。10年の大逆事件では米国から公開状を送って天皇を批判する。14年（大3）に帰国し、20年には日本社会主義同盟の結成に参加し、しだいにアナキズム運動の主力として活躍した。ただ、昭和初期の同陣営の内部対立ではサンジカリズムを批判する純正アナキズムの立場に立った。敗戦後、46年に結成された日本アナキスト連盟の全国委員長となり、占領軍批判などの運動を行なった。50年に連盟が分裂する

と、サンジカリズム的傾向に反対する同志を集めて、翌56年に日本アナキスト・クラブを創立した。



難波大助の墓